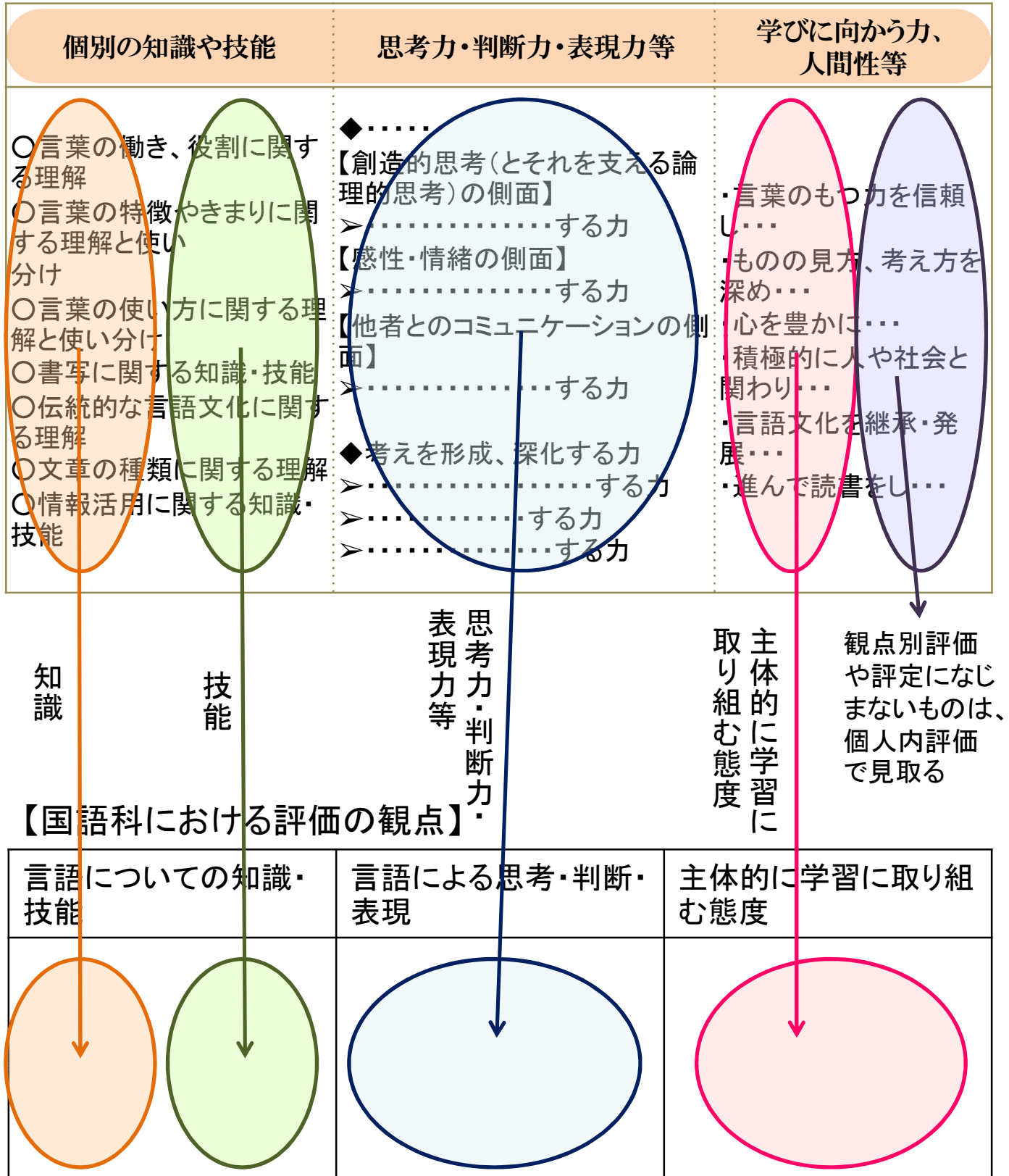


# 国語科における学習評価について(案)

平成28年4月20日  
 教育課程部会  
 国語ワーキンググループ  
 資料5

## 【国語科で育成すべき資質・能力(3つの柱で整理)】



※「知識」は事実的な知識のみならず、思考・判断・表現の過程を経て構造化された概念的な知識の理解も含む。

## 【国語科における評価の観点のイメージ例】

	言語についての知識・技能	言語による思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校	(例) 日常生活に必要な国語の特質(仮)について理解し使っている。	(例) 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、人と人との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めている。	(例) 言葉を通じて、積極的に人と関わったり、思いや考えを形成したりしようとするとともに、言葉のよさに気付き、読書に親しんで言葉をより良く使おうとしている。
中学校	(例) 社会生活に必要な国語の特質(仮)について理解し適切に使っている。	(例) 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、社会との関わりの中で、国語で適切に表現したり正確に理解したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めている。	(例) 言葉を通じて、積極的に人や社会と関わったり、思いや考えを確かにしたりしようとするとともに、言葉の価値に気付き、進んで読書に親しんで言葉を適切に使おうとしている。
高等学校	(例) 生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質(仮)について理解し適切に使っている。	(例) 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を伸ばし、社会や他者との関わりの中で、国語で効果的に表現したり的確に理解したりするとともに、実社会の視点から、新たな考えを創造する力を高めている。	(例) 言葉を通じて、積極的に社会や他者と関わったり、意見や思想を構築したりしようとするとともに、言葉の価値を認識し、自覚的に読書に親しんで言葉を効果的に使おうとしている。